

女性消防団員の持続可能な活動モデル「御殿場モデル」の提案

—少人数・リーダー不在でも機能する多機関連携の仕組み—

静岡県御殿場市消防団女性部

1. はじめに

「女性部は何をしているの?」「結果を出してほしい」——周囲からのこうした声が、私たち御殿場市消防団女性部が活動の場を「内」から「外・地域」へと広げ、結果を出すための挑戦を始めるきっかけとなりました。

右も左もわからない中で模索を続けた私たちが、最終的にたどり着いた解決策は、地域のリソースと自分たちを結びつける「多機関連携の仕組み」を構築することでした。この取組は、近年の災害対応で求められる連携ニーズにも合致し、女性団員の先進性が評価され、第28回防災まちづくり大賞で日本防火・防災協会会長賞を受賞するに至りました。

この受賞を契機に、私たちが現場で試行錯誤しながら作ってきた仕組みを、全国の女性団員の皆様の課題解決に役立てていただけるよう「御殿場モデル」として提案いたします。

2. 背景と課題

私たち女性部が直面していた課題は、多くの地域の女性消防団にも共通するものではないでしょうか。

1 活動の迷走——災害時の活動が定まっていない

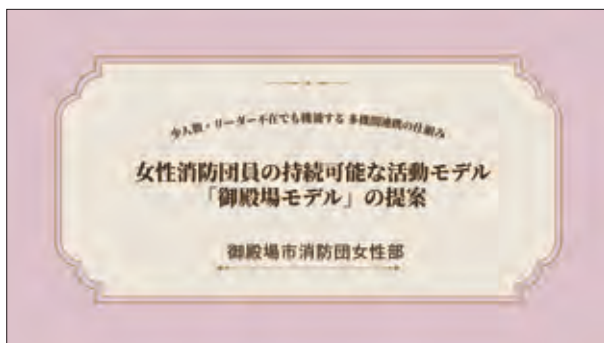
従来は事務局の指示で火災予防などを行っていましたが、災害発生時に具体的に何をすればよいのか役割が定まっていませんでした。また、今までの活動では期待に応えられないというのは、大きな悩みでした。

2 リソース不足——少人数のため活動の効果も小さい

少人数かつ全員が参加できるわけではないため、女性部だけで行う活動は効果が得られにくく、企画や準備も同じ団員に負担がかかり、継続性のある活動が困難でした。

3 属人化——カリスマ的リーダーがいない

誰かの思いつきで行う単発の活動はあったものの継続性がなく、その人がいなければできない活動になってしまっていました。強いリーダーシップを持つカリスマがいなくても、継続して活動していく仕組みが必要でした。



御殿場市消防団女性部「御殿場モデル」の提案



女性部と6つの連携機関

3. 御殿場市消防団女性部の 連携機関と具体的内容

現在、エフエム御殿場、陸上自衛隊板妻駐屯地、消防本部、消防団本部、社会福祉協議会、市役所市民協働課、市役所危機管理課と連携しています。主な活動内容は次のとおりです。

陸上自衛隊板妻駐屯地

- ・駐屯地での専門知識習得
- ・女性部と他連携機関担当者による合同研修
- ・富士登山駅伝（救護所支援）
- ・炊出し訓練での配膳、炊事競技会での審査員、ラッパ指導

当時の連隊長に温かい応援をもらい、貴重なアドバイスをいただいたことが、私たちの多機関連携の大きな原点となりました。災害時の活動として、炊出し配膳支援・給水支援の補助など、少人数でも受け入れてもらえる道の確保に繋がりました。独自の発信力が強く、広報活動としても絶大です。

社会福祉協議会

- ・災害ボランティアセンター立ち上げ訓練
- ・被災者支援コーディネーター協力

全国の市町にあります。規模や災害対応の範囲は様々です。御殿場社協では、災害時の災害ボランティア本部支援など、少人数でも受け入れてもらえる道が確保されています。こちらも担当者・活動内容が完成されており、持続可能な活動です。



社会福祉協議会と連携した
「災害ボランティアセンター立ち上げ訓練」

市役所危機管理課

- ・モデル区防災訓練 避難所運営支援
- ・学校、保育園等での防災救命講習
- ・ジュニア防災士教育支援

連携強化により、避難所運営のアドバイザー的な活動が定着しました。学校等での活動も定期的かつ負担なく参加させてもらえるようになり、防災訓練での自衛隊、社会福祉協議会と連携した活動も可能になりました。

市役所市民協働課

- ・男女共同参画推進事業所、男女共同参画推進委員
- ・知事広聴会参加、御殿場市長と女性の懇談会参加

市民協働課の推薦で懇談会参加や委員として市の会議への参加ができるようになり、大きな広報効果を得ています。

エフエム御殿場

- ・防災パートナー契約、防災啓発番組
- ・定期的な情報発信、不定期での出演

災害時の活躍が期待されるコミュニティFMは活動の相性も良く、少人数でも効果を最大化できる広報戦略です。

消防本部・消防団本部

- ・火災予防活動、救命講習
- ・消防団後方支援、研修

消防本部、消防団本部との活動は、女性部の基軸となります。



小学校での防災授業の様子

4. 御殿場モデル 導入ロードマップ

組織の「協定」よりも、担当者間の「顔の見える関係」を優先し、小さな信頼を積み重ねるステップです。特別なリーダーがいなくても、少人数から持続可能な多機関連携をスタートできる「仕組みの型」を提案します。

Step 1 「関係づくり」

担当者との雑談からスモールスタート。まずは顔見知りになることが大切です。冷たい対応でも気にしないこと。成功率をアップさせるのは、団員の本業との関わりから出会いがある場合です。

Step 2 「型の構築」

地域の身近な機関との連携メニューを決定します。おすすめは市役所危機管理課の防災訓練からです。自然と他の機関との連携に繋がることも多く、完成された活動に参加させてもらうのがポイントです。

Step 3 「システム化」

年間計画に組み入れます。定期的に行うことで、メンバーの交代や人事異動にも柔軟に対応できるようにします。人数や内容、曜日、時間を考慮し、負担が少ない形で実施することが重要です。

5. パートナー選定・連携の3大原則

少人数でも持続可能な活動にするために大切な原則です。自分たちにも相手方にも負担にならないことがコツです。この関係構築が上手くいくことで、災害時に迷わず動ける女性部になっていくでしょう。

1 三方よしの心

「手伝ってください」という一方的なお願いではなく、「相手（連携先）のメリット」「自分たちのメリット」「地域のメリット」の3つがすべて満たされる関係を目指します。



「御殿場モデル」導入ロードマップ

2 担当者の本業である

相手に消防団の余計な仕事をお願いするのではなく、普段の仕事の延長で繋がるのが重要です。これにより連絡が取りやすく、女性部の負担も軽減されます。

3 顔の見える関係

組織の協定のような形ではなく、気軽に連絡をとって相談できる関係を築くことから始めます。日頃のちょっとした打ち合わせ等を重ね、心理的なハードルを下げます。

6. 出会いから「顔の見える関係」になるまでの5ステップ

1 出合いの種まき

- ・災害現場やイベントでの激励・差し入れの際に担当者を紹介してもらう
- ・相手方の防災講演などを聞きに行き、感想を伝える
- ・メールの時代だからこそ、手紙や直接の挨拶の効果は絶大

2 仲間入りのお願い

- ・顔見知りになれば女性部の活動について相談してみる
- ・最初から完璧な連携案を準備する必要はない
- ・「仲間になってください」というスタンスを大切にする

3 関係のインフラ化

- ・用事がある時だけ連絡するのではなく、節目や相手のイベントの際に差し入れや挨拶に出

向く

- ・小さな積み重ねで「あっ、女性部さんね」と顔が浮かぶ関係（インフラ）に変えていく

4 相手からの依頼は断らない

- ・たとえ消防団活動に関係ないことでも快く引き受ける
- ・イベント参加や別の活動依頼も大切な関係構築の機会

5 顔の見える関係の完成

こうして築いた関係があれば、特定のカリスマリーダーがいなくても強固な多機関連携が自然とスタートします。

7. 「こんなときどうする？」

——現場で生きる5つのトラブル回避術

相手の担当者や事務局の異動で関係がリセットされる

1対1ではなく複数名で顔なじみになる。方針が変わっても丁寧な説明を重ねて次の理解者を待ちます。

自衛隊のような機関はない。断られたらどうする？

地域の身近な機関でOK。地域の特色を出します。団員の本業の繋がりから声をかけると成功しやすいです。

参加人数が少なくて心配。活動回数が増えて疲弊しない？

最小人数でも成立する内容にします。回数は月1～2回までに抑え、自分たちの会議等は活動の前後に合体させます。

毎年新しい活動をイチから考えるのは大変

新規のイベントは作りません。相手の年間計画に参加させてもらいます。自分たちの練習も合同訓練活動に含めるなど工夫します。

少人数で活動していてもなかなか市民に知ってもらえない

地域の広報誌や地元新聞が「いつも取材に来る定番イベント」に参加させてもらい、女性部の名前も入れてもらいます。

8. 結びにかえて

——誰もが誇りを持って活動できる未来へ

「これでいい」と確信させてくれた最初の理解者は御殿場市長

「女性部は何かしているの？」という言葉に悩みながらも私たちが一歩を踏み出した時、「応援しているよ」と誰よりも早く活動を認め、この道で良いと確信させてくださったのが御殿場市長でした。私たちが迷わず進む大きな力となりました。

「足りない」からこそ強い仕組みが生まれた

私たちの【御殿場モデル】は、活動が定まっていなない・少人数・カリスマ不在の「何か足りない・どうしよう」に向き合い、地域の多様な機関に頼り、知恵を絞って「仕組み」を作ったからこそ、どこでも・誰でもできるモデルになりました。

全国の女性団員がもっと誇りを持てる未来へ

このモデルは、自衛隊などの特別なリソースがなくても、地域の身近な機関をリスペクトし「仲間になってください」と一歩踏み出す。それだけで真似できます。誰もが気負わず、誇りを持って地域を守れる未来へ繋がることを願っております。

第28回防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会会長賞受賞

（連絡先：御殿場市・小山町広域行政組合消防本部を通じて御殿場市消防団女性部へ）



陸上自衛隊板妻駐屯地での訓練（訓練後の笑顔のひとつ）